

夢に向かって 将来を担う新成人 629 人が誕生

南あわじ市の初めての成人式が一月八日、南あわじ市文化体育館で開催され、六百二十九人が成人の仲間入りをしました。



新成人による企画

会場内は新成人が色鮮やかな晴れ着やスーツ姿に身を包み、華やいだ雰囲気となりました。今回の成人式は、応募による新成人二十人が成人式実行委員会（岸上直生委員長）を組織し、企画、運営を協議し準備を進めました。

式典以外にも、中田勝久市長との意見交換「二十歳のサミット」、十本の桜を記念植樹する「二十歳の森」、また会場ロビーには、小学校四年（十歳）の児童による「二分の一成人」からのメッセージの展示や「二十歳の募金なべ」など多彩な内容となりました。

ファッションショーなど式典、2部にわかれて

第一部の式典では、同会副委員長の森勇治さんの開会が始まり、国歌斉唱、中田市長の式辞、来賓祝辞、岸上委員長の謝辞、日本ユニセフへ寄付金の贈呈が行われました。



▲華やいた会場

二十歳の主張

一部紹介（敬称略）



▲二十歳の主張（藤井さん）

藤井千鶴子 大人としての自覚を持ちつつ、たくさんの友達と毎日を楽しく生活していきたい。

西郷秀治 成人になったことの喜びは新たな覚悟の始まりであり、身の引き締まる思いがします。

前田千鶴 二十歳という大事な出発点を大事にし、責任ある行動をとりたい。

北野有規 自分のしたいことを見つけ、その望みを成就せねばなりません。信念があれば必ず道は開けると思う。

勳田真二 四つの町が力をあわせたのと同様、私たちも力を合わせて南あわじ市をすばらしい街にできるような努力し、今後も自身を鍛えあげ社会に貢献できるように努力したい。



▲二十歳の記念に桜の木を文化体育館に植樹 ▲10歳の子どもから寄せられたお祝いのメッセージ ▲懐かしい写真の上映 ▲謝辞、岸上実行委員長

市長と直接対話「二十歳のサミット」

成人式に先立って、新成人らと市長らがパネルディスカッション形式で意見交換する「二十歳のサミット」が一月七日、文化体育館のサブアリーナで行われました。



▲二十歳のサミットに集まった新成人

まずパネラーの自己紹介が行われ、市長や助役、教育長らは自分たちが二十歳だったころの話を交え、また新成人の代表らも二十歳に至るまでの心に残った思い出を交え話しました。

その後、南あわじ市の未来に対する希望や福祉、交通事情、結婚など幅広いテーマについて意見が交わされました。

市長から、島外で在学中



▲意見を交換する新成人と市長ら（二十歳のサミット）



の新成人に対し、「何がどうあれば淡路に帰ってくるのか？」という質問には、「働く場所があれば帰ってきたい」「大好きな淡路島へ戻ってきたい」などの意見が多く寄せられました。

ふれあい市長室

若者の成長を心強く感じます

去る一月八日に文化体育館において、南あわじ市が誕生して初めての成人式を開催いたしました。前日には、二十歳のサミットを開催し、「すばらしい南あわじ市に住み続けたい」「働く場所がほしい」などの意見が出されました。新成人のしつかりとした意見に感心し、初心に返った気がします。

また、新成人が実行委員会を結成し、準備、運営、成人の主張等、すばらしい対応と内容は、社会の一員として成長されていることを心強く感じました。

成人式で申しあげました一部を記載いたします。

「地域の支えとなって根ざしてください。ふるさとに住む者は、消防活動や祭礼団をはじめ各種分野で活躍いただきながら綿綿と地域の歴史をつくっていただいております。また、まちを出て努力を重ねる方は、ふるさとを思い自分の生き様を全うしながら、影に日向にご支援をいただきます。」

新成人の皆さん、どうか自分の才能を発見していただき、人間としても充実感を持つ二十代は、挑戦と忍耐、吸収と基礎づくり、或いは家庭づくりの時代として活躍いただきたいと存じます。」

南あわじ市長 中田勝久